

アサリの子供たちを波から守れ

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 齊藤, 肇
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009372

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



アサリの子供たちを波から守れ

水産土木工学部

研究の背景・目的

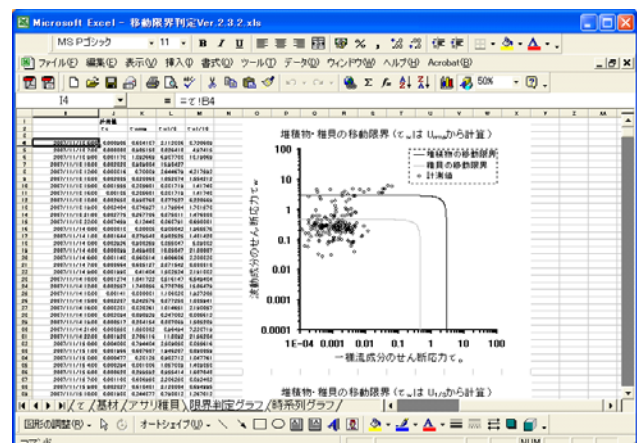
アサリなど二枚貝を対象とする採貝漁業は、じょれんや熊手といった軽装の漁具を使って行われています。移動や輸送の手段は、小型の船外機船や徒歩です。このため、採貝は燃油消費が少なく、省エネや投資効率という点で優れた漁業です。しかし、近年、良い漁場が減少しているため、稚貝の発生を促す場所を守り、つくる必要があります。水産庁から委託を受けた「湾・内海スケールでのアサリ稚貝の自給と干潟ゾーニングによる生産増大システムの開発」(H21～)では、「アサリ稚貝の定着を促進する海底境界層の物理環境の解明」(H18～20)の成果を応用し、稚貝の供給を安定化させることで、干潟の生産力を復活させようとしています。

研究の成果

1. 海底の砂を動かす波の力が強いためにアサリ稚貝が定着できない干潟では、碎石散布、貝殻散布、網掛けや波よけ支柱を用いて、海底に対する流れの影響をゆるやかにすることによって、アサリ稚貝が多くなることを明らかにしました。
2. 海底での稚貝の移動させられやすさを比較することを目的とした調査方法とデータ解析ツールを、都道府県等の水産研究者が利用できるようにまとめました。

波及効果

1. 稚貝の定着を促進するために用いる方法と場所を、漁場での流れや地形の特性に応じて適切に選択できるようにします。
2. 波・流れと稚貝との関係についての研究成果は、アサリ以外の二枚貝にも活用できます。



左：大型回流水槽での実験風景、右：稚貝の移動させられやすさの解析ツール

(生息環境研究チーム: 齊藤 肇)